

日本学術会議地域研究委員会・地球惑星科学委員会合同地理教育分科会
自然地理学・環境防災教育小委員会（24期・第1回）
議事録

日時 2018年4月22日（日）15時40分～16時30分
会場 慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟1F会議室A
出席 春山（第三部会員）、奥村、久保、近藤、篠田、鈴木康弘（以上、連携会員）、
宇根、日下、須貝、鈴木毅彦、山縣（以上、委員）
欠席 恩田、小岩、山野
配布資料 小委員会構成および設置趣旨

1. 24期の体制（役員を選出）

・委員長を鈴木委員、副委員長を須貝委員、幹事を鈴木毅彦委員、および本人の了解が取れば山野委員を幹事に加える（注：メールで4/23に了解取得）。

2. 今期の活動方針

1) 新学習指導要領に関して

- ・地球環境問題や災害への取組として自然地理は重視されているが、体系的な取扱がむしろ減る懸念がある。
- ・自然地理を扱う上で災害のみ強調しない方がよい。自然からの恩恵もある。
- ・地理総合は地理Aの後継という見方もあるとすると、従来、地理Aで系統的に教えていた自然地理の項目が消滅することが憂慮される。網羅的に何でも教育すべきということはないが、例えばケッペン気候区分図などの重要性は強調すべきではないか。
- ・新しい教科書の「章立て」に関して、例えば地理学会シンポジウムなどで議論できないか。

2) 活動の方向性

- ・前期の提言をさらに深める。分科会全体として、高校における教員の充足率などを調査して数値目標を示すべきではないか。大学教育も連動した課題となる。
- ・新指導要領では地学と地理の双方で防災が扱われている。両者の関係を検討する必要があるのではないか。

3) 「地理総合」教材素材集（高校の先生向）

- ・分担を再確認する必要がある。碓井先生から8月末締め切りで依頼があったことを確認した。

4月23日：幹事から議事録案を全委員へメール送信

4月27日までに異議の無いことを確認

4月28日：議事録案確定